

平成25年度事務事業評価結果報告書
（対象：平成24年度実施事務事業）
【 総合計画施策体系別 】

総務部企画課

目 次

1	芦別市の事務事業評価	1
2	事務事業評価の導入目的	1
3	評価の方法	1
4	事務事業評価シートの内容	2
5	事務事業評価の範囲及び結果	5

【 添付資料 】

<資料 1>	「行政評価システム」評価入力項目（事務事業シート）	6
<資料 2>	総合計画の体系図による事務事業評価の実施状況	10
<資料 3>	平成 25 年度事務事業評価一覧	12

1 芦別市における事務事業評価

芦別市まちづくり基本条例第16条に基づき、平成22年度に事務事業評価の試行実施を行い、平成23年度から本格的に事務事業評価を導入し、市関与の妥当性、必要性、効率性、目標達成度などの観点から評価を行い、より効果的な行政運営を目指すために、事業の見直しや進め方の改善を図ってきました。

事務事業評価は、「計画（Plan）⇒実施（Do）⇒評価（Check）⇒改革・改善（Action）⇒計画（Plan）…」というPDCAマネジメントサイクルにより、事務事業等の見直しや改善を行い、まちづくりに反映するものです。

2 事務事業評価の導入目的

本市における事務事業評価の導入目的は、①成果重視の行政運営システムへの変革、②限られた財源等の有効活用、③市民への説明責任の質的向上、④職員の意識改革です。

行政活動の最小単位である事務事業を対象に、PDCAサイクルによる事務事業評価を行うことで、職員間で共通認識を持ちながら、より効果的な事業実施を目指します。

また、評価結果を公表することにより、市民への説明責任を果たし、行政への信頼性の向上を図ります。

3 評価の方法

（1）市関与の妥当性

事務事業の実施主体が行政であるべきか、市民団体や民間企業等で実施することが可能かどうかを評価します。

（2）必要性

社会的ニーズや事業を実施しなければ市民生活に重大な影響があるなどの緊急性を評価します。

（3）効率性

事務事業に係る前年度コストと当該年度コストとの比較をします。

また、評価の指標として、「活動指標」「成果指標」を設定して、コストに係る活動指標の割合により評価します。

「活動指標」とは、事務事業の実施において、どのような行政サービスをどれだけ提供したかを示すものです。言い換えれば、事務事業の実施により「何をしたか」を示すものが「活動指標」であり、それにより「どのような状態に導いたか」を表すものが「成果指標」であると言えます。

なお、今回の報告書においては、「活動指標」と「成果指標」の掲載は省略しています。

(4) 目標達成度

「活動指標」や「成果指標」の目標を掲げ、実績をチェックします。

(5) 評価の実施

①所管課長による1次評価

(1) から (4) のそれぞれの評価を踏まえ、現時点での課題やその課題に対する対応方法、さらには今後の方向性を示し、事務事業担当課により総合判定を実施します。

総合判定は次の7区分です。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ア 現状のまま継続 | イ 見直して継続【拡充】 |
| ウ 見直して継続【改善】 | エ 見直して継続【縮小】 |
| オ 見直して継続【統合・振替】 | カ 休止・廃止 |
| キ 終了 | |

②行政評価推進チーム会議による2次評価(案)の作成

総務部長を責任者として、総合計画・財政・行政改革・組織を所管する各課長、係長で構成する「行政評価推進チーム」を編成し、2次評価(案)の作成を行います。

③行政評価委員会による2次評価

行政評価推進チームの作成した2次評価(案)を基に、「芦別市行政評価委員会」(委員長:副市長、副委員長:教育長、委員:総務部長、市民福祉部長、経済建設部長、市立芦別病院事務長、消防長、議会事務局長)により総合判定を実施します。

総合判定(7区分)は、1次評価と同様です。

4 事務事業評価シートの内容

(1) 事務事業の基本情報

- ①事務事業名及び担当課
- ②総合計画体系の名称及び基本目標等
- ③予算会計区分及び予算科目

(2) 事務事業の目的

①事務事業の対象、意図、手段

(3) 事務事業のコスト

①事務事業にかかる決算額を財源内訳とともに表示しています。

(4) 事務事業の評価

①総合評価

最高配点を40点として、4段階で表示しています。

A：適切…………… 35～40点 B：概ね適切…………… 30～34点

C：改善の余地有… 17～29点 D：不適切…………… 11～16点

②評価項目（市関与の妥当性、必要性、効率性、目標達成度）及び評点

評価の方法で示した「市関与の妥当性」、「必要性」、「効率性」、「目標達成度」を点数化し、事務担当課の意見等を付して総合評価を実施しています。評点にかかる詳細については、P9の「評価採点シート」を参照願います。

「市関与の妥当性」…計10点

(市関与の妥当性：配点9点／重点事業の関連性：配点1点)

「必要性」……………計10点

(社会的ニーズ：配点4点／緊急性：配点4点／独自性：配点2点)

「効率性」……………計10点

(投入指標変化度※1：配点2点／効率指標変化度※2：配点3点／他事業との統合・連携：配点2点／コスト縮減の余地：配点3点)

※1 当該年度費用合計と前年度費用合計の割合

※2 当該年度費用合計と当該年度活動指標実績の割合、前年度費用合計と前年度活動指標実績の割合を算出し、それぞれを比較した割合

「目標達成度」……………計10点

(活動指標達成度※3：配点3点／成果指標達成度※4：配点3点／施策への貢献度：配点4点)

※3 当該年度活動指標実績と前年度活動指標実績の割合

※4 当該年度成果指標実績と前年度成果指標実績の割合

(5) 総合判定と今後の方向性

1次評価は事務事業担当課の評価、2次評価は1次評価実施を踏まえ、芦別市行政評価委員会による評価内容を示しています。

① 1次評価における総合判定と現時点における課題、課題に対する対応方法、今後の方向性

ア 総合判定

判定区分：見直して継続【拡充】、見直して継続【改善】

見直して継続【縮小】、見直して継続【統合・振替】

休止・廃止、終了、現状のまま継続

イ 現時点における課題

ウ 課題に対する対応方法

エ 今後の方向性

② 2次評価における総合判定と今後の方向性

ア 総合判定 1次評価における総合判定と同様（7区分）。

イ 今後の方向性

5 事務事業評価の範囲及び結果

平成24年度事務事業評価（平成23年度実施事務事業）では、378事務事業のうち、内部管理事務や法定受託事務等、評価を行うメリットの少ない166の事務事業（評価対象外）を除く211事務事業について、評価を実施しました。

これらの経過を踏まえ、平成25年度事務事業評価では、平成24年度に実施した384事務事業のうち、評価対象外とした171事務事業を除き、213事務事業を評価しました。評価結果については、次のとおりです。

総合判定件数	見直して継続【拡充】	見直して継続【改善】	現状のまま継続	見直して継続【縮小】	見直して継続【統合・振替】	休止・廃止	終了
213事業	5件 2.3%	49件 23.0%	150件 70.4%	1件 0.5%	5件 2.3%	1件 0.5%	2件 1.0%

【 添 付 資 料 】

<資料1> 「行政評価システム」評価入力項目（事務事業シート）

<資料2> 総合計画の体系図による事務事業評価の実施状況

<資料3> 平成25年度事務事業評価一覧